

## テーマ: フィールドワーク「掩体壕周辺を歩く」

～ 調布飛行場掩体壕・高射砲台座跡・深大寺城跡～

日時: 1月29日(金) ※雨天中止

集合: 西武多摩川線多磨駅改札左の地下道くぐり南の広場 午前9時半

昼食: 深大寺前のそば屋など(各自)

コース: 多磨駅…武蔵野の森公園ふるさとの丘…掩体壕(大沢2・1号)

…旧陸軍門柱…野川(排水溝)…高射砲台座跡…深大寺(昼

食)…深大寺城跡等…深大寺前バス停(解散)

1941(昭和19)年4月に官民共同の飛行場として設置された調布飛行場は、8月には陸軍専用の飛行場として使用されるようになりました。太平洋戦争の戦況が悪化する1944年(昭和19)年7月、サイパン島が陥落し、アメリカ軍の本土空襲が本格化すると、本土決戦に備えて残り少ない戦闘機を隠しておくため、飛行場周辺に掩体壕(格納庫)が造られました。コンクリート製の有蓋が30基、土壘と竹で作ったコの字型の無蓋が30基、短期間に造られました。

調布飛行場の244戦隊には、1943年7月、それまでの九七式戦闘機に代わり新鋭戦闘機が配備されました。正式名キ-61、愛称「飛燕」は、高速能力に優れ、陸軍の主力戦闘機として採用されました。しかし、液冷エンジンの故障に悩まされ、後に空冷に変えたのが五式戦闘機で、ここには1945年5月に配備されました。

敗戦後、多くの掩体壕は取り壊されました。この大沢1号、2号も道路計画で壊されることになりましたが、市民の保存運動で保存されることになりました。現在この2基と、府中市の2基、合計4基が保存されています。

近くの高台には高射砲陣地があり、6門ずつ配備されていました。1945年には、戦死者が出ています。ここには高射砲台座跡が残っています。

深大寺城は、国分寺崖線緑地の標高50メートルに位置する連座式の中世城郭です。天文(1537)年、扇谷上杉朝定が北条氏綱に奪われた江戸城奪回を目指して古城を再築したものです。しかし北条氏に直接本拠地の川越城を攻め抜かれたことから、その効果を発揮することなく、7月には廃城となりました。

城郭の崖下には、野川北岸の立川面が広がり、東側は開析谷による湿地帯になっています。1954～66年にかけて発掘調査が行われ、建物跡や再建前の城郭のものと推定される空堀跡などが発見されています。

◆参加希望者は 高田まで(090-4535-1540)